

第99回 日本消化器内視鏡学会総会

会 長

樋口 和秀 (大阪医科大学 内科学II教室 教授)

第99回日本消化器内視鏡学会総会会長を拝命し、2020年5月22日(金)から24日(日)まで、国立京都国際会館にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の国内外における感染拡大がみられ、緊急事態宣言が出され、その結果9月2日、3日に延期、縮小開催とさせていただきました。会場は同じく国立京都国際会館で、嚴重な感染対策をとり、会場参加とWeb参加の本学会としては初めてのハイブリット開催となりました。ほとんど大きなトラブルもなく、7000人余りの先生方の参加があり盛会裏に終了することができましたのは、スタッフの方々、学会の関係者の方々の暖かいご支援があったからだと非常に感謝しております。

今回の総会のテーマは“**Dream and Pride**—世界に発信する日本の内視鏡”です。“夢と誇りをもって”は、私が大阪医科大学第二内科の教授に就任以降、当教室のモットーとしてきたものです。自身の仕事や将来に夢をもち、自身が所属する組織はもちろんのこと、自身の研究、臨床に誇りを持てるように、日々自己研鑽に励んでほしいと考えてやってきました。日本の内視鏡技術、内視鏡学においても同様に、現在の消化器内視鏡診療における現況

を把握することで、先人が培ってきた本邦の優れた、世界に誇れる消化器内視鏡診療を再認識し、同時に新たな課題を見出すことで次世代の理想的な夢のある内視鏡の研究成果を世界に発信しようという発想で企画させていただきました。AIを用いた次世代の内視鏡診療や、ゲノム医療における内視鏡の役割、Beyond the ESD、内視鏡診療における抗血小板薬の取り扱い、急速に進歩してきている胆膵内視鏡診療、小児内視鏡診療、超高齢化時代への対応、実地医療での内視鏡の重要性など、幅広く主題を取り上げました。

特別講演には、本総会のテーマの一つである‘夢と誇り’をもって行われている大阪のモノづくりについて、株式会社アオキ取締役会長の青木豊彦様に、“下町ロケット”のご講演など興味あるご講演をお願いしました。また、緊急特別企画として、新型コロナウイルス感染に関して、大阪医科大学総合診療科の鈴木富雄教授に感染の最前線のご講演、本学会医療安全担当理事の獨協医科大学消化器内科、入澤篤志教授に内視鏡と新型コロナウイルス感染の最前線についてご講演していただきました。今回も、多数の海外の先生方をお招きし、ご講演をしていただく予定でし



たが、新型コロナウイルス感染蔓延のため中止とさせていただきます。一部、Webでのご参加を快くお引き受けしていただいた海外の先生方がおられました。

このような新型コロナウイルス感染蔓延下で不透明な現状でありましたが、スマホやリモートでの質疑応答も初の試みとして採用し、

活発に会が行われたと感じています。今後の医療系の学会の在り方を模索する第一歩になったのではないかと考えております。本当に皆様方のご支援ご協力の賜物と心より感謝しております。ありがとうございました。

